

令和6年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育の概況	極端に前進していた生育は、3月上下旬の低温の影響により緩慢となり、小麦の出穂期は平年並から3日早まる程度となった。現在の作柄は「並」が見込まれる。
作業の進捗状況	赤かび病等防除、排水対策

1 気象経過（前橋橋地方气象台データの平年比、※4月は20日まで、参考資料参照）

項目	11月	12月	1月	2月	3月	※4月
平均気温	+1.3℃	+1.7℃	+1.9℃	+2.0℃	±0.0℃	+3.0℃
降水量	79%	59%	96%	238%	177%	104%
日照時間	115%	110%	108%	92%	104%	97%

2 生育概況

(1) 概要

初期生育は順調で、播種が早かったほ場を中心に草丈、茎数は平年を上回り、麦踏みの開始時期も早まった。12月下旬から1月中旬で乾燥傾向となったため、大麦の一部で下葉の黄化・葉先の枯れが見られたが、1月下旬から2月上旬の降雨により回復した。2月は気温が著しく高く推移し、平年より生育が大幅に早まったが、3月は一転して低温傾向が続き生育が緩慢となり、出穂期は小麦、二条大麦、六条大麦ともに平年並から3日早まる程度となっている。3月下旬から4月中旬にかけて降雨量が多く、播種の早いほ場や生育の旺盛なほ場では、なびきや部分倒伏が見られ始めている。

3月の低温、降霜の影響により二条大麦で幼穂凍死や不稔粒が極一部で見られたが、収量への影響は少ないと予想される。一方、各麦種で赤かび病に感染しやすい生育ステージに高温や降雨が続いたことから、病気の発生と品質への影響が懸念される。

4月18日発表の向こう1か月の長期予報では、平年より気温が高い確率が80%と予想されており、成熟期は平年よりやや早まることが見込まれる。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

雑草の発生がやや多い（コアカザ、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、スズメノテッポウ、ヤグルマギク等）。

過繁茂気味なほ場ではうどんこ病が見られる。

(3) 作況ほ等の調査結果

作況ほ（さとのそら）のデータの平均は、播種期は11月23日（過去平均比+2日）、3月20日現在の草丈が32.8cm（同128%）、茎数が1,070本/m²（同104%）、幼穂長が5.0mm（同119%）となっている。

農業技術センターの生育基本調査結果（小麦「さとのそら」、11月15日播種）では、4月10日現在の草丈が63.6cm（過去10カ年平均比108%）、茎数が660本/m²（同93%）であり、節間伸長始期は3月14日（同-7日）、出穂期は4月16日（同-5日）であった。

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は各地とも「並」であることから、県内平均作柄は「並」が見込まれる。

表 1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地 区	播種期	3 月 20 日			出穂期 月 日
		草 丈 cm	茎 数 本／m ²	幼穂長 mm	
平 均	11/23(+2 日)	32.8(128)	1070(104)	5.0(119)	4/17(±0 日)
前 橋 市	11/22(-)	24.5(-)	1665(-)	3.0(-)	4/16(-)
伊勢崎市	11/23(+1 日)	36.0(153)	800(96)	7.3(153)	4/15(±0 日)
高 崎 市	11/23(+8 日)	29.7(106)	1006(100)	5.5(86)	4/17(+3 日)
太 田 市	11/30(+1 日)	24.2(111)	907(98)	2.5(130)	4/19(-2 日)
千代田町	11/19(±0 日)	41.3(141)	1565(116)	4.7(123)	4/17(-1 日)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

*日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市はほ場変更により過去値なし、伊勢崎市は過去 2 年、高崎市は同 4 年、太田市は同 10 年、千代田町は同 2 年の値。前橋市は県平均から除外した。

表 2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

播種期 月／日	幼穂形 成始期 月／日	節間伸 長始期 月／日	3 月 20 日		4 月 10 日		出穂期 月 日
			草丈 cm	茎数 本／m ²	草丈 cm	茎数 本／m ²	
11/15 (±0)	2/20 (-11)	3/14 (-7)	35.4 (136)	949 (98)	63.6 (108)	660 (93)	4/16 (-5)

* () 内は過去 10 年の平均に対する日数および比率(%)。

表 3 普及指導課・地区農業指導センター管内の麦類の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並	並	並	並	並	並

3 技術対策

(1) 赤かび病対策

ア 赤かび病の防除を必ず実施する。降霜による奇形穂、不稔が散見されることや感染しやすい生育ステージに高温、降雨があったことから本年は発病リスクが高いことに留意する。2 回目の防除適期は 1 回目の防除後 7～10 日後である（1 回目の防除適期は、小麦が開花始期～開花期：出穂 7～10 日後頃、六条大麦が開花始期～開花期、二条大麦が穂揃期の 10 日後頃である。）

「ゆめかおり」は赤かび病防除と同時作業での尿素溶液による葉面散布を行う。

イ 倒伏したか所や赤かび病の発生が認められた場合は、刈り分けを行い健全麦への混入を回避する。調製施設等においては、荷受け時の確認を徹底するとともに、ふるい目の拡大や比重選別機、色彩選別機等を利用して被害粒を除去する。

(2) うどんこ病・アブラムシ対策

発生状況に応じて防除を行う。「つるぴかり」「きぬの波」はうどんこ病に弱く、過繁茂のほ場で発生しやすい点に留意する。

(3) 排水対策

排水不良のほ場では排水溝の設置や手直しを行い、湿害や枯れ熟れの回避を図る。

(4) 雑草対策

収穫物に雑草種子が混入しないよう抜き取り等を行う。

(5) 災害対策等

降ひょうにより麦が脱粒し、麦種実がほ場に投入される場合は後作の施肥量の調整を行う。水稻の場合は、脱粒子実が 300kg/10a 程度では基肥窒素を 1～2 割減ら

し、脱粒子実が 400kg/10a 以上では基肥窒素を 2 kg/10 a 程度にとどめる。

(6) 収穫準備・適正収穫

ア コンバイン等の機械類の清掃を徹底し、あらかじめ済ませておく。荷受け施設においては、麦の生育状況に合わせた稼働計画を設定する。また、登熟期の高温・乾燥時は、強制登熟によって成熟がより早まる場合があることに留意する。

イ 収穫適期の目安は、穀粒水分が 25%以下になった時とする。穂首の曲がり状態で判断すると、二条大麦が 90%以上、小麦・六条大麦が 50%以上の時である。

ウ 成熟期後に長雨が予想される場合、穂発芽を避けるため収穫可能な場合はできる限り収穫作業を行う。

エ 収穫した麦は速やかに乾燥させ、品質低下を避ける。

【参考資料】

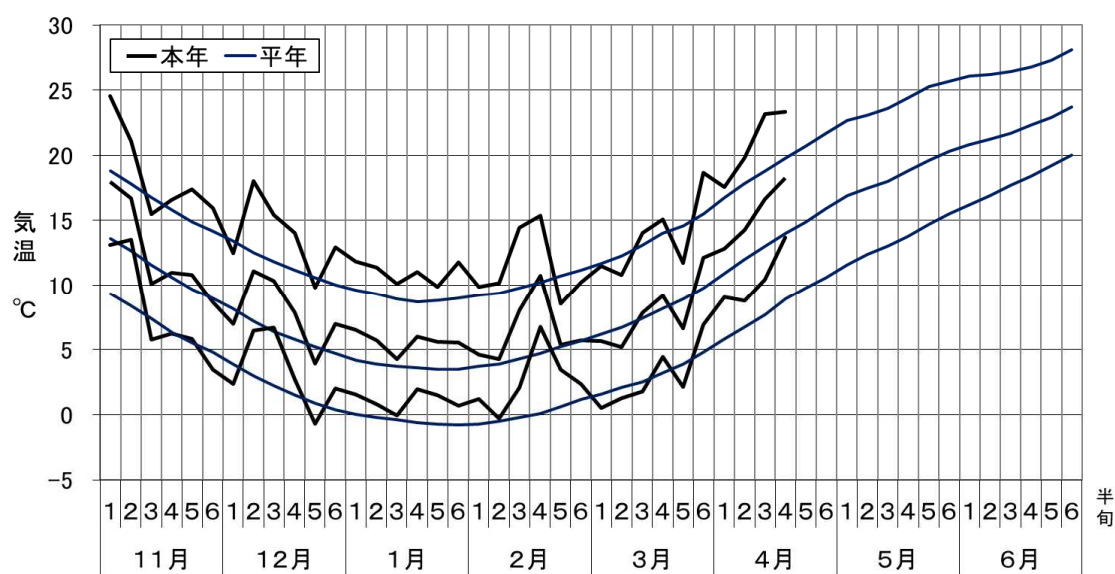


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

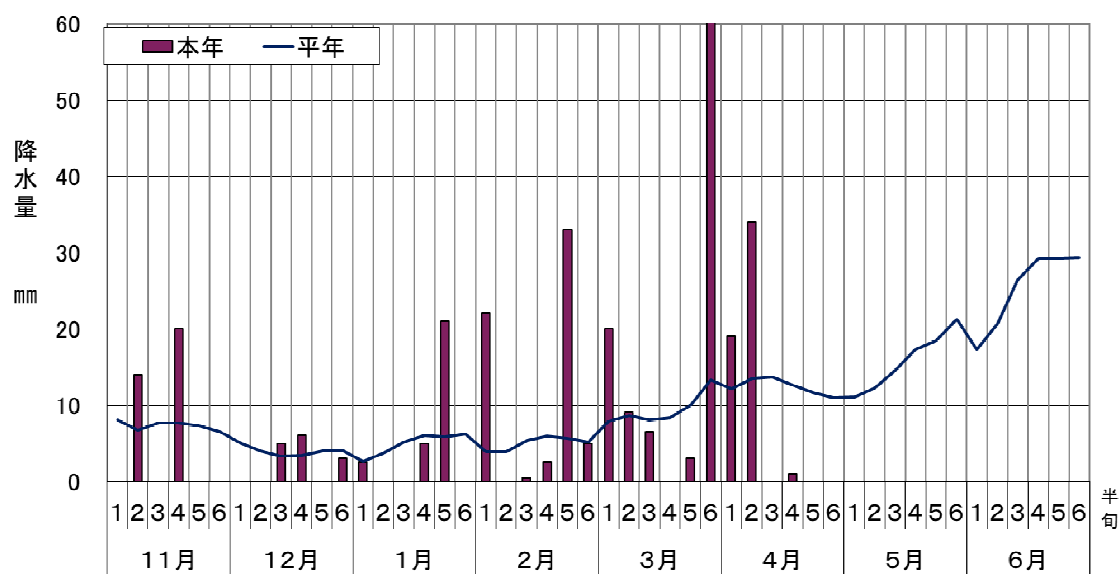


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

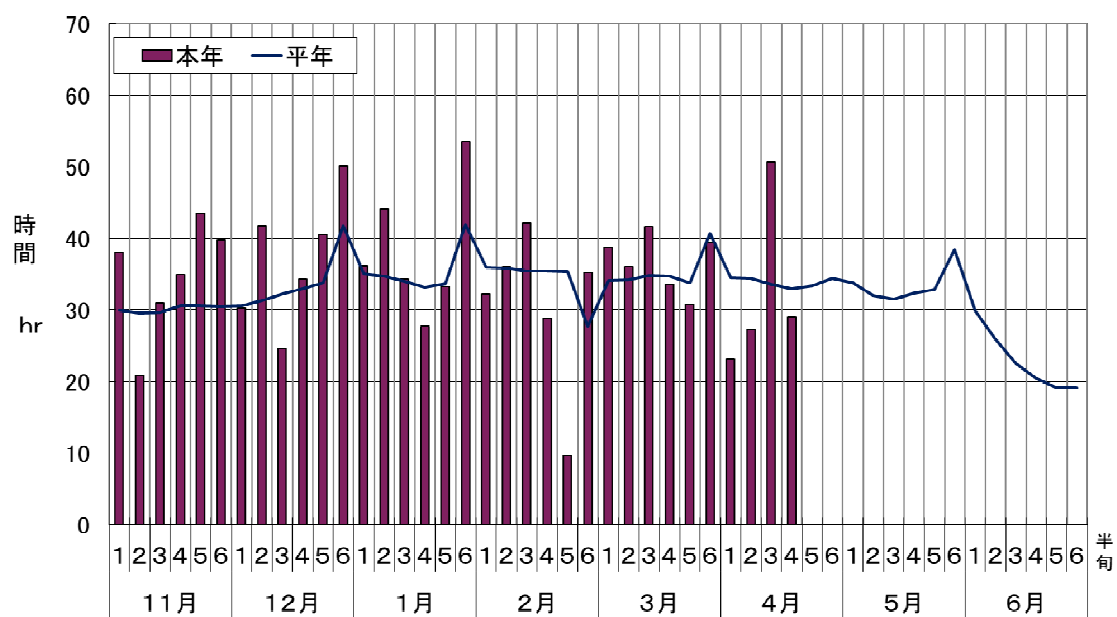


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）